

Durvalumab維持療法

（ ）コース目

患者ID： @PATIENTID

患者氏名： @PATIENTNAME

身長 (cm)	体重 (kg)	体表面積 (m ²)
\$HEIGHT01_Doc	\$WEIGHT01_Doc	#VALUE!

投与スケジュール： 1コース 14日

投与期間：最長12ヶ月間

使用基準： 適正使用ガイドに準じる。

開始前に甲状腺機能の確認のため、乳腺甲状腺外科へコンサルテーションすること。

PS:0~1、好中球数>1,500/mm³、Plt>100,000/mm³、T-Bil≤1.5×ULN、ALT,AST≤2.5×ULN

Hb≥9.0g/dL、クレアチニンクリアランス (Cockcroft-Gault式)>40mL/min

※ **投与中**はVital singのチェック (Monitor装着を推奨)※ **Infusion reaction**に要注意

重度のInfusion reaction (アライキ様症状、血管浮腫、気管支痙攣、発熱、悪寒、呼吸困難、低血圧等) が発現することがある。**2回目以降**の投与時に初めて発現することもある。

※ 間質性肺疾患があらわれ、死亡に至った症例も報告されているので、初期症状 (息切れ、呼吸困難、咳嗽、疲労等) の確認及び胸部X線検査の実施等、観察を十分に行うこと。また、異常が認められた場合には本剤の投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。

※ 定期的に心電図の検査をすること

※ 肝機能障害に注意すること

※ 甲状腺機能障害に注意すること。甲状腺機能障害があらわれることがあるので、本剤の投与開始前及び投与期間中は定期的に甲状腺機能検査 (TSH, 遊離T₃, 遊離T₄等の測定) を実施すること。本剤投与中に甲状腺機能障害が認められた場合は、適切な処置を行うこと

※ 大腸炎、重度の下痢があらわれることがあるので、患者の状態を十分に観察し、持続する下痢、腹痛、血便等の症状があらわれた場合には、適切な処置を行うこと

※ 肝炎ウイルス検査を行うこと

《 使用薬剤 》

デュルバルマブ：デュルバルマブ (120mg/2.4mL・500mg/10mL)

投与量：

薬剤	標準投与量	計算値 (mg)	投与量 (mg)	投与日
デュルバルマブ	10 mg/kg	#VALUE!		1

<< タイムスケジュール：開始時刻 >>

※記載している時刻は例です。当日の投与予定時刻ではありませんのでご注意ください。

1月1日 (金)	0時00分	①	生理食塩液 50mL 血管確保用に速度適宜に点滴静注	
	0時15分	②	生理食塩液 100mL + デュルバルマブ注 <u>0.2μm or 0.22μmのフィルター一体型輸液セットを使用する</u> 60分間で点滴静注	mg 0.0mL
	1時15分	③	生理食塩液 50mL (①残薬の使用可) フラッシュ	

REFERENCE

S. J. Antonia, A. Villegas, D. Daniel, D. Vicente, et al; N Engl J Med 2017;377:1919-29

Durvalmab after Chemoradiotherapy in Stage III Non-Small-Cell Lung Cancer

2018年8月度化学療法プロトコール審査委員会承認：2018年8月20日